

平成30年度 第2回 「宇都宮市民大学運営協議会」議事録

- 1 開催日時 平成30年8月2日(木) 午前10時30分～正午
- 2 開催場所 人材かがやきセンター 研修室(中央生涯学習センター5階)
- 3 出席者 委員 8名(別紙参照)
事務局 9名(生涯学習課)
増淵課長, 吉澤課長補佐, 鈴木係長, 黒須総括, 高田専任
藤田社会教育主事, 加藤社会教育主事, 若林社会教育主事
佐藤主事, 亀岡地域教育指導員
- 4 公開・非公開の別 公開
- 5 傍聴人 0人
- 6 会議次第
 - (1) 開会
 - (2) 挨拶
 - (3) 議題
 - ① 平成30年度宇都宮市民大学前期講座実施状況について
 - ② 平成30年度宇都宮市民大学後期講座の実施について
 - ③ 平成31年度宇都宮市民大学の実施について
 - (4) その他
 - ・宇都宮市民大学運営協議会・講座企画運営選考委員会の委員選任について
 - (5) 閉会
- 7 会議資料 別添資料参考
- 8 議事の経過

(1) 開会

事務局) … それでは、ただいまより、平成30年度第2回 宇都宮市民大学 運営協議会を開会いたします。

まず、定足数についてご報告申し上げます。本日の出席委員は、8名となっており、出席委員数は半数を超えておりますので、宇都宮市民大学運営協議会 運営要領第6条 第2項の規定を満たしており、本日の会議は 成立しておりますことを、御報告いたします。

(2) 挨拶

川本会長 ⇒ みなさま、こんにちは、川本でございます。本日はご多用の中、また暑い中、平成30年度第2回宇都宮市民大学運営協議会にご出席いただき誠にありがとうございます。

市民大学事業につきましては、委員の皆様の御協力、並びに事務局の方々の御尽力により、より充実したものになったと感じております。

本日の議題でございますが、「平成30年度宇都宮市民大学前期講座実施状況」、「平成30年度宇都宮市民大学後期講座の実施について」、また、「平成31年度宇都宮市民大学の実施について」でございます。

平成31年度の市民大学の実施につきましては、平成31年度の市民大学の方針の会議となりますので、委員の皆様には、魅力溢れる満足度の高い市民大学となりますよう、忌憚のない御意見を頂戴したいとお願い申し上げます。以上簡単ではありますが、挨拶とさせていただきます。

(4) 議 題

事務局) … ありがとうございます。続きまして、議題に入らせていただきたいと存じます。

議事の進行につきましては宇都宮市民大学運営協議会運営要領第5条第2項の規定により、会長が議事を進行することとなっておりますので、これから先の進行につきましては、川本会長にお願いしたいと存じます。

川本会長、よろしく願いいたします。

川本会長 ⇒ それでは、議事を進めて参りたいと存じます。スムーズな議事進行ができますよう、皆様のご協力をよろしく願いいたします。

川本会長 ⇒ 議題①「平成30年度宇都宮市民大学前期講座実施状況について」事務局から説明をお願いいたします。

① 平成30年度宇都宮市民大学前期講座実施状況について

(議事の趣旨)

川本会長⇒ それでは、今回資料の参考2にあります、講座ごとの集計を作っていたのですが、カラーということで大変わかりやすく、見やすく、各講座でそれぞれ具体的に見比べができるということで大変参考にな

と思います。

小針委員 ⇒ ご説明ありがとうございます。

今回、グラフがカラーで出ているのでいろいろな要素が読み取れるかなと思いますけれども、課題のひとつでありました、新規受講者の獲得に関して、受講回数の初回というのがそういう意味合いということではよろしいでしょうか。

事務局… はい、そうでございます。

初回は新規申込みされた方でございます。2回目以上の方がリピーターとなりまして、市民大学を評価いただき継続して受講していただいていると考えております。新規でお申し込みいただいた方は、優先して受講できるよう受け入れております。

小針委員 ⇒ありがとうございます。コンスタントに初回というパーセンテージに各回に入っているのが、優先的に受けていただいているという成果がわかると思います。これから、ガラッと初回と3回目以上は入れかえてしまうようなことはあまりないかと思えますけれどもちょっとずつでも増やしていけたらいいなとグラフで確認していければいいかと思いました。

川本会長 ⇒ ありがとうございます。他にはいかがでしょうか。

川本会長 ⇒ それでは、他にご意見等ないようでしたら議題①「平成30年度宇都宮市民大学前期講座実施状況について」ご承認いただきたく思います。いかがでしょうか。

一同 ⇒ 異議なし。

(議題①については、全委員の承認を得て議決)

川本会長 ⇒ 続きまして、議題②「平成30年度宇都宮市民大学後期講座の実施について」事務局から説明をお願いいたします。

② 平成30年度宇都宮市民大学後期講座の実施について

野中委員 ⇒ 資料1に関連するところもあるのですが、1ページの合同開講式の受講者の感想・意見の4つ目に「交通の便のいいところにしてほしい」という意見があるがあったところで、後期の方は帝京大学ということになっています。この後の議題に関係してくると思うが、そのあたりのことは事務局ではどのようにお考えなのか聞かせていただきたいと思います。

事務局… 受講者の年齢層を見ると、公共交通機関などを活用して市民大学や公開講座に参加してくださる方が多いようです。一方で、連携先の大学で実施した場合は、より専門的なことを学ぶ環境や雰囲気にはかれるという両方の面をもっています。前回の昨年度の作新大学の方では、調整の結果、市役所の14階会議室で実施させていただいて好評をいただいております。今後も、公開講座の会場となっております大学と協議をさせていただいたうえで、できるだけ受講者の負担が少なく、参加しやすい場所を選択していけるように考えていきたいと思えます。

また、出席率、受講者の内48%しか公開講座に参加していただけなかったということもあります。今後の手法につきましては、検討中でございますので次回の協議会では皆様のご意見をいただけるよう準備を進めてまいります。

野中委員 ⇒ありがとうございます。せっかく宇都宮市に複数大学があり、特色も様々であるようなので、事務局の方では話し合いをしていただけたらと思います。

川本会長 ⇒この件に関しましては、31年度の方でも出るかと思いますが、30年度後期の方では、本学のキャンパスを使うということで、車でしたら駐車場も施設もたっぷりありますし、バス路線は宇都宮駅発のため少し不便になってしまうかと思いますが、2年ほど前に帝京大学で合同開講式・公開講座をやらせていただいたときは、170名ほどご出席いただきました。大学としても内容を受け止めて実施に向け準備を進めていきたいと思えます。

川島委員 ⇒ 後期専門講座が9月3日から募集ということでしたが、内容の具体的なものはすでに現時点までに決まっているということですのでよろしいでしょうか。

事務局) … こちらは、昨年の11月実施しました講座企画運営選考委員会で選考された講座となります。企画者であるVスタッフや各専門講座の講師の先生方とも協議をしながら詳細なカリキュラムを作成したところです。現在は、後期パンフレットの校正も進み印刷をする段階に入っているところでございます。パンフレットの印刷が済み次第、委員の皆様方には郵送、そして関係各所及び平成30年度前期の受講者申込された方にも同様にパンフレットを送付します。一般市民向けには、広報うつのみやにも掲載しているところですが、広報紙面の関係上タイトルのみになってしまいますので、各施設に配架しましたパンフレットをご覧ください。ホームページに詳細が記載してありますのでそちらをご覧ください、お申し込みをいただくよう案内しているところでございます。

事務局… 補足となりますが、後期のパンフレットは校正中でありまして、原稿がありますので、回覧していただければと思います。

川本会長 ⇒ 他にご意見がないようですので、議題②「平成30年度宇都宮市民大学後期講座の実施について」ご承認いただけますでしょうか。

一同 ⇒ 異議なし。

(議題②については、全委員の承認を得て議決)

川本会長 ⇒ それでは、議題③「平成30年度宇都宮市民大学の実施について」事務局から説明をお願いいたします。

③ 平成30年度宇都宮市民大学の実施について

長谷川委員 ⇒ 以前にもお話ししたかと思いますが、コースが3つのコースに分

かれていますよね。実際に企画が上がってこなかったのかどうかわかりませんが、「郷土を愛する地域・文化・歴史コース」が今年度も前期後期と6つありまして、「今を読み解く現代社会コース」がありまして「暮らしを彩る教養コース」が2つしかなく、非常に少ないです。やはり、均等にしていただけたらというお話をしたかと思いますが、やはり企画として挙がってこないのが、均等にできないという理解でよろしいでしょうか。

事務局…こちらは、講座企画運営実行委員会へのVスタッフによる企画内容によりましてコースの数に変動が出てしまうものです。開催の資料にもありますように「今を読み解く現代社会コース」は、Vスタッフによる企画は難しく、伸び悩んでいるところでございます。また、「郷土を愛する地域・文化・歴史コース」はリピーター率や人気も常に高く企画しやすい傾向にあるようです。今後において「暮らしを彩る教養コース」が少なくなってしまう場合は、Vスタッフの企画の数を8月に募集案内する際に、過去の応募数などをお示ししながら、バランスよく応募していただけるよう、Vスタッフへ事務局から働きかけていきたいと思っております。貴重なご意見ありがとうございます。

長谷川委員⇒ よろしくお願ひします。前回もお話ししましたが、公開講座ですね、今回アンケートは「意味がない」という意見はなかったようですが、毎回出ていましたので、以前私もどうにかしてほしいと申しました。あのあと考えまして、「開講式」ではなく「閉講式」というのでしょうか、修了生に修了書をお渡しするという式をして、また各コースの専門講座の代表制に講座のよさを発表したり、それから、皆さんとの交流もしていただくと、よりよくなるのではないかと思います。

それから、先ほど仰っていた今回カラーできれいにしていただき、やはり動機としては「仲間づくり」とか「地域活動」を目的としている方たちはほとんど0とか1パーセントとかで少ないですけど、最終的に成果に悩むところには、若干5パーセントとかですが、仲間ができたとか地域活動に役立てたいという方も増えてきていますので、そういった働きかけ、やっぱりせっかく受講した時この辺が非常に大切なのではないかなと思っておりますので、閉講式でそういった働きかけができればよいのではないかと考えました。

川本会長 ⇒ありがとうございます。ただいま、長谷川委員から開講式ではなく閉講式で、発表会みたいな最後のまとめをするという意見がありました。私としても非常に良い意見だと思います。大学などでも実習後に必ず成果発表会をやります。そうすると、それに関連した方や学生から意見がたくさん聞けていい雰囲気につながれます。そういったことができると思いますので、そちらの方もぜひご検討いただけたらと思います。

御子貝委員⇒ 特別にございません。みなさんお忙しい中、貴重な時間を割いていただきまして、私共のために会議を開いていただいて感謝しております。ありがとうございます。

小針委員 ⇒ 講座を選ぶときの観点としてひとつ加えていただきたいのですが、まず、最初の課題ところで新規受講生の獲得と、もうひとつ幅広い内容での講座の実施ということで、幅広い内容ということで「郷土を愛する地域・文化・歴史」ということで、言ってみれば過去や郷土愛から学ぶというところで、「今を読み解く現代社会」はまさに現代それから知恵の話題とかいてありますけれども、それから「暮らしを彩る教養コース」は教養全般ということになりますね。未来に向けた観点ってこれから非常に重要だと思うのです。過去では経験則ではなかったことが起きている時代ですし、学びの面でも人々の心という面でも、健康という面でもいろいろな面で今までのことが通用しない時代であると思います。未来は予言できないのですが、たとえば、前期で行った「住みやすい都市と環境を考える」などは、これからのことを見据える視点があるのではないかと思います。このような未来を考える観点をに入れていただければいいのかなと思いました。おそらく、こうしたものは人気がないのではないかなと思います。というのは、「住みやすい都市と環境を考える」の講座の受講者の感想は辛口ですが、今後への期待値が高いように思います。感想と意見の割には、成果ではがちゃんと出ているということもあって、そういう意味では、失敗ということも起きないのだろうなという感想を持っています。ぜひ、未来をみすえるという観点を加えていただけるとよいかなと思います。

川本会長 ⇒ありがとうございました。小針委員の御意見は次年度の開催方針に反映していただけたらよいと思います。

事務局) … さきほどよりご案内しております、8月下旬に行うVスタッフの連絡会議では、開催日といったそういった話と、小針委員からいただきました御意見、テーマなどですね、積極的にご意見いただくような形で事務局から企画をするVスタッフさんに説明させていただきます。また、連携講座の方でも連携大学と企画に繋げていただければと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

小林委員 ⇒専門講座の方針につきましては、今ありましたような皆さんが楽しめるようなコースが設定されるといいと思います。特にアの「郷土のコース」につきましてはイメージとしてはお守りの講座といいですか、これをやっていたら皆さん人気で人が集まるという部分ですよ。今ありました、「現代社会のコース」は攻めの講座で、関心を持ってもらうための啓発的なニュアンスもあるのかなという、攻めと守りの講座をどのくらいの割合で配置するのがちょうどいいのか、人の集まり具合とか、全体的なまとめ方とかそういったバランスがカギになってくると思いますので、そのあたりのさじ加減でコースの設定をすると寄り集まっていたらありがたいなと思っております。

また、先ほどお話がありました、場所の問題があるかと思いますが、バス代を出して郊外の学校で開催する際にはということは過去にされたことはあるのかということと、もしされる予定や可能性があるのか。

もう一つは、市民大学、「大学」というような言葉がありますので、もし合同開講式の際に式典と公開講座だけでなく、大学のイメージには、各単位やコマ数というものがありますので、同じ日にその専門講座の第一回を別の教室開いてみたりしたり、大学に来るのでキャンパスでランチをとってみたり、そういったなにかキャンパスライフを楽しむみたいなそんな要素をちょっとつけてみると、なにか変化が出てくるのかなと個人的にイメージを感じております。

事務局) … ご質問・ご意見をいただき、ありがとうございます。まず、講座のコースバランスにつきましては、昨年は講座の応募数が少なかったことから、よりコース数の偏りが出てしまったかと思います。今年度募集をする際は、コースや先ほどご指摘いただいた攻めの部分と守りの部分のバランスが上手く取れるよう、企画者Vスタッフの方への説明にも工夫していきたいと思えます。

次に、会場の方についてですが、過去に作新学院大学を会場に開催した際に、宇都宮駅から作新学院大学までの路線バスの本数が少なかったことから、作新学院大学から市民大学がバスをお借する形で実施しました。一部使用料としてお支払いをして市民大学の受講者専用の送迎バスとしたところです。バス費用の負担につきましては、毎年予算の削減という状況がありますことから、予算との兼ね合いを見ながら今後検討していきたいと思っております。

最後に、帝京大学において、市民大学受講生が大学食堂でランチを食べるといったようなアイデアは、受講生にとってまたとない機会かと思えます。実際に私共事務局も大学を会場に合同開講式・公開講座を運営する際は、午前中から準備するため、お昼は大学の学食などを利用していただいています。大学の学食には興味のある方も多かと思えますし、折角の機会ですので受講者の方にも経験していただくと喜ばれると思えます。今後、連携大学と協議しながらも考えていけたらと思っているところであります。

山田委員 ⇒ 30年度の予定を見まして、全体的に4番、5番のところが隣接している。逆に今回のアンケートで辛辣だなと思ったのは「住みやすい都市と環境を考える」のところいくつかあったのですが、無理をしまして、本来であれば2つに分かれる分野を無理やりくっつけてしまった部分がありまして、そこにゆがみが出たのではないのかなという気がしました。シティライフと子ども生活を全く別と言い切るのは辛さがありますけれど、比較的違う分野をひとつにくっつけたので、きっと難しかったのかなと思えます。ですから、そういうところを受講者の方は逆に期待感をもって来られているので、そこを実現するというか、クリアしていくというのが、やはり難しいところもいくつかあると思えました。

それと、開催地の件については以前私共で大学が市街地から遠いと

ということでご迷惑をおかけしております。やはり交通の便などを考えますと、駅を中心として、もしくは駅に向かっていく途中としてアプローチできるような会場を準備するというのは今後必要でしょうし、都市計画の中で本当にこれから20年、30年の中でまた違った都市計画が進められてくると思うのですが、生涯学習を行っていくような中心地が形成されていくこともひとつ望ましいのかなと思います。まだまだ先の話ですし、いまここで話すようなことではないと思いますが、各県の政令指定都市などを見ると、駅のところに大きなホールとか会場が隣接してついているのが多く見受けられるので、宇都宮市もそういったことを考えていただければと思います。

川本会長 ⇒ ありがとうございます。他に御意見・ご質問ございますでしょうか。

川本会長 ⇒ 無いようですので、それでは、議題③「平成31年度宇都宮市民大学の実施について」ご承認いただけますでしょうか。

一同 ⇒ 異議なし。

(議題③については、全委員の承認を得て議決)

川本会長 ⇒ 本件以外にもせっかくの機会でございますので、委員の皆様から、市民大学に関しまして、何かご意見・ご要望等ございましたらご意見いただきたいと思います。いかがでしょうか。

川本会長 ⇒ 特にご発言ないようですので、続きましてその他「宇都宮市民大学運営協議会・講座企画運営選考委員会の委員選任について」について、事務局の方からお願いします。

(4) そのほか

宇都宮市民大学運営協議会・講座企画運営選考委員会の委員選任について

川本会長 ⇒ ありがとうございます。本件に関しまして、何かご意見・ご質問ありましたら、ご発言願います。

川本会長 ⇒特にないようですので、そのように推薦をお願いします。

事務局… ありがとうございます。

川本会長 ⇒ 以上で本日の議題は全て終了といたします。円滑な議事進行に関しまして、ご協力いただきまして誠にありがとうございました。